

平成 18 年 10 月 21 日

2007 年強化方針

社団法人日本ボート協会

理 事 長 平 岡 英 介

強化委員長 細 田 眞

チームリーダー 細 淵 雅 邦

2007 年は北京オリンピックの出場資格を取得する重要な年であり、8 月ミュンヘン世界選手権での好成績を目指し 2007 年強化方針を次の通りとする。

<2007 年目標>

- 1、LM2X : 世界選手権ファイナル A 進出 (北京オリンピック出場資格獲得)
- 2、LW2X : 世界選手権ファイナル B 進出
(少なくともアジア大陸予選による北京オリンピック出場資格獲得)
- 3、LM4- : ロンドンオリンピックに向け長期強化計画策定
(世界選手権は参加予定)
- 4、オープン種目 : 世界挑戦への条件設定
- 5、次世代強化 : U23・U19 の強化体制の策定
- 6、継続事業 : コーチ養成・強化スタッフ体制充実・練習環境充実・選手発掘

<男子軽量級ダブルスカル A1>

ジョバンニ・ポスティリョーネ氏をヘッドコーチとして継続し、北京オリンピックへ向けての最重点強化種目として引き続き位置づける。

2006 年世界選手権 7 位になった武田・須田両選手を北京オリンピックまでの特別強化選手に指定 (8 月度理事会承認)、継続的強化を実施する。

No3 の選手を 2 月に選考、3 名で欧州強化合宿を実施 (2 ヶ月×2 回) する。

世界選手権ファイナル A でのオリンピック出場資格獲得を目指す (上位 11 クルー)。

選手サポートは 2006 年度スタッフを継続し選手のフィジカルおよびメンタル面のサポートを行う。

<女子軽量級ダブルスカル>

男子軽量級ダブルスカルに次ぐ優先強化 2 番に位置づける。

12～5 月の評価選考合宿と評価レースで選考された選手を 2 名に絞る（6 月目途）。

欧州での長期合宿を含め継続的強化策を実施する。

世界選手権ファイナル B でのオリンピック出場資格獲得を目指す（上位 8 クルー）。

世界選手権でオリンピック出場資格を得られなかった場合 11 月に行われる（場所未定）

アジア大陸予選での出場資格獲得を目指す（上位 3 クルー）。

<男子軽量級舵手無しフォア スイープ>

05 年 06 年の世界選手権での成績から長期に亘る新たな強化計画の必要性を確認したことを受けロンドンへ向けての長期強化計画の策定を目標とする。具体的施策として

☆ 選手所属団体との協議

☆ 長期的強化候補選手の選考と優先拘束の可能性模索

☆ 専任コーチ採用の可能性（外国人コーチ含む）

を考慮する。

2007 年は計画策定とするがそのステップとして 12～5 月の評価選考合宿と評価レースで選手を選考（6 月目途）する。

国内での強化を中心に世界選手権へ臨む。

<オープン種目>

世界へ挑戦するためのエルゴ数値による条件設定し、

12～5 月の評価選考合宿及び評価レースで選手を評価する。

選手個々を評価した上で世界への挑戦の可能性を判断する。

<次世代強化>

(1) U23

年間を通じた強化事業への変更を検討する。

対校戦や授業との関係を整理し所属団体との連携を強化する。

特に冬場や陸上での体力強化に重点を置く（国際スタンダードの練習計画提示）。

U23 世界選手権 ファイナル A 進出を目標とする。

(2) U19

高体連強化部と連携 事業内容・資金の協議を実施する。

U23・シニアに繋がる基礎体力強化を図る。

アジアジュニア出場全種目メダル獲得を目標とする。

世界ジュニア選手権 ファイナル A 進出を目標とする。

<コーチ養成・強化スタッフ体制充実・練習環境充実・選手発掘>

コーチ養成 : 北京以降のコーチ体制も考慮したコーチ養成の継続及び発掘

☆A1の継続性のあるコーチ体制

☆スィープの長期計画に基づくコーチ体制

☆女子コーチ養成

強化スタッフ : 2006年度スタッフの継続と充実

練習環境 : 国内ナショナルチームの練習環境・設備・器具の充実

選手発掘 : 競技者育成プログラム見直し

以上